

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-27

なし

(発行年 / Year)

1910

第七章 留置權

(理由) 本章ハ留置權ニ關シ既成法典債權擔保編第九十二條乃至第九十六條ヲ修正シテ規定スルモノトス抑モ留置權ニ關スル規定ハ多數ノ立法例ニ依レハ法典ノ各部ニ散在シ必要ニ應ジテ所々ニ規定セラルルヲ以テ通例トス然ルニ既成法典ハ便宜上之ヲ一處ニ經括シテ擔保編第二部第一章ヲ設ケタルモノニシテ諸國ノ商法ニハ其例少カラスト雖モ民法ニ於テ此主義ヲ採用セラルハ編題民法草案アルノミ然レトモ之レ固ヨリ便利ニシテ且編纂ノ方法ニ適スルモノナレハ本案モ亦本章ニ於テ留置權ノ通則效力及ヒ其消滅ニ關スル一般ノ規定ヲ設ケルコトニ決セリ其他法典中ニ於ケル本章ノ位置ニ付テモ種々ノ見解行ハレ或ハ留置權ヲ以テ正當防禦ノ一方法トシテ之ヲ總則中ニ規定シ或ハ債權擔保ノ一方法トシテ債權編ニ規定シ若クハ差押ノ一種類トシテ訴訟法中ニ掲グル例アリト雖モ本案ハ留置權ヲ以テ債權擔保ノ方法ト爲スニ拘ラス亦之ヲ純然タル一種ノ物權ト認メタルニ因リ物權編中ニ規定スルモノナリ

第二百九十五條 他人ノ物ノ占有者カ其物ニ關シテ生シタル債權ヲ有スルトキハ

其債權ノ辨濟ヲ受クルニテ其物ヲ留置スルコトヲ得但シ其債權カ辨濟期ニ在ラサルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ノ占有カ不法行爲ニ因リテ始マリタル場合ニハ之ヲ適用セス

(理由) 既成法典擔保編第九十二條ノ規定ニ付キ種々ノ評論アルニ拘ラス本案ハ其主義ニ於テハ之ニ

従フヘキモノト認メタルヲ以テ本條ノ修正ハ多クハ字句ノ修正ニ止マレリ即チ
 (第一) 既成法典ハ留置權ノ目的物ヲ債務者ノ動産又ハ不動産ニ限定スル雖モ債務者以外ノ者ニ屬ス
 ル物ヲ善意ニテ占有スル場合ニ於テハ又固ヨリ留置權ヲ生ゼサルヘカラスルヲ以テ本案ハ廣ク
 他人ノ物ヲ占有スルトキト改メテリ

(第二) 既成法典ハ占有ノ原因ヲ表面ヨリ觀察シテ正當ノ原因ニ基クコトヲ要スト規定セリ然レトモ
 單正當ノ原因ニ因リテ占有スト云フトキハ其始メ不正ノ原因タルモ後ニ至リテ正當ト爲ルトキハ
 留置權ハ存立スル如ク解セラルニ足レレ之レ本案ノ避ケテトスル懸點ニシテ占有ノ詐欺ノ如キ
 不正ノ原因ニ由リテ始マリタルトキハ其後ニ至リ正當ノ名義ヲ得ルモ法律ハ之ニ因リテ留置權ヲ生
 セルヘキニアラス故ニ本案ハ此主意ヲ明ナラシムル爲メ本條第二項ニ於テ既成法典ノ正當ノ原
 因ナル字句ヲ裏面ヨリ解シテ占有カ不法行爲ニ因リテ始マリタルトキハ留置權ヲ生ゼシメサルコト
 ヲ明カニセリ又既成法典ノ規定ニ依レハ留置權者ハ正當ノ原因タルコトヲ證明セサルヘカラスト雖
 モ本條第二項ノ如クナレハ證明ノ責任ハ留置權者ニ存シ之ニ因リテ又權利保護ノ趣旨ニ
 適セシムルコトヲ得ヘレ

(第三) 既成法典ニ依レハ債權發生ト共ニ留置權モ亦直ニ成立スル如キ疑ヲ生ゼシムルニ足ル
 ト雖モ若シテ如クナレハ取引ノ安全ヲ害スルコト少ナカラサルヲ以テ本案ハ債權ノ辨濟期ニ在
 ルコトヲ要スル旨ヲ示シ期限前ニ留置權ノ成立セサルコトヲ明カニセリ蓋留置權ノ規定ヲシテ實際

ノ便利ニ適セシムルニハ其當中ニ成立スヘキ時期ヲ明示スルヲ以テ必要ト信シレハナリ
 (第四) 既成法典ハ債權發生ノ原因ヲ詳細ニ記載スト雖モ之レ固ヨリ脱離ノ虞キ能ハス例ヘ既成
 法典ニ依レハ改良費用ニ基テ債權ノ如キハ留置權ヲ生ゼサルカ如ク本案ハ苟モ債權カ存在スル以上
 ハ其原因ノ何タルヲ問ハス廣ク留置權ヲ生ゼシメ先取特權ノ如ク債權ノ種類ヲ區別スヘキノニア
 ラスト信スルヲ以テ單ニ占有物ニ關シテ生ゼタル債權ト改メテリ
 又既成法典第九十二條第二項ノ規定ハ事務管理ノ規定ニ屬スヘキノナレハ之ヲ刪除セリ

**第二百九十六條 留置權者ハ債權ノ全部ヲ辨濟ヲ受ケルマテハ留置物ノ全部ニ付
 キ其權利ヲ行フコトヲ得**

(理由) 本條ハ既成法典擔保編第九十二條第二項ト同一ニシテ同條第二項ハ無用ノ法文ニ過キサルヲ
 以テ之ヲ刪除セリ

**第二百九十七條 留置權者ハ留置物ヨリ生ズル果實ヲ收取シ他ノ債權者ニ先チテ
 之ヲ其債權ノ辨濟ニ充當スルコトヲ得**

前項ノ果實ハ先ツ之ヲ債權ノ利息ニ充當シ猶ホ餘剩アルトキハ之ヲ元本ニ充當
 スルコトヲ要ス

(理由) 本條ハ既成法典擔保編第九十四條ニ聯テ修正ヲ加ヘテリ即チ同條第一項ハ留置權ニ先取特權
 ノ存セサルコトヲ明示スト雖モ先取特權ハ法律ノ明文ニ因リテ始メテ發生スルモノナレハ特ニ之ヲ

規定セザレハ留置權ニ先取特權ヲ存セザルコト明白ナラフ以テ之ヲ删除セリ又同條第三項ハ留置權者ニ果實收取ノ特權ヲ附與スルニ對シテ此者カ收取ヲ怠リタル場合ニ於ケル特別ノ責任ヲ規定スト雖モ留置權ハ通常永續スヘキモノニアラス法律モ亦固ヨリ其早ノ消滅スルコトヲ望ムモノニレテ債務者ノ辨濟ヲ促カレ共履行ヲ待テモノナレハ債權者ニ對シ果實收取ニ付キ充分ノ注意ヲ強要スルコトハ頗ル酷ニ失スト云ハサレヘカラス殊ニ法定ノ果實ニ付テ然ルヲ見レハ故ニ本案ハ之ヲ删除シテ債權者ニ過當ノ責任ヲ免カレシメタリ要スルニ本條ハ既成法典擔保編第九十四條第一項三三句ヲ修正ヲ加ヘタルノミニレテ單ニ果實ヲ謂フ自然及ヒ法定ノ二種ヲ包含スルモノトス

第二百九十八條

留置權者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ留置物ヲ占有スルコトヲ要ス

留置權者ハ債務者ノ承諾ナクシテ留置物ノ使用若クハ質貸ヲ爲シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ得ス但其他物ノ保存ニ必要ナル使用ヲ爲スハ此限ニ在ラス留置權者ハ前二項ノ規定ニ違反シタルキハ債務者ハ留置權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

(理由) 本條以下數條ハ動産質ニ關スル既成法典ノ規定ヨリ抽出シタルモノニシテ既成法典ハ動産質ノ不動産質ノ規定ヲ留置權ニ適用スヘキコトヲ定ムト雖モ既ニ留置權ハ爲メニ一章ヲ設ケルノミナラ

ス之ヲ質權ノ前ニ規定スル以上ハ留置權ニ關スル通則ハ本章ニ規定スルヲ以テ當然トス本條ハ即チ既成法典擔保編第九十六條ノ規定ニ依リ之ニ三三句ヲ修正ヲ加ヘタルモノニシテ其實質ヲ變更シタルニアラサレハ別ニ説明ヲ要セス

第二百九十九條

留置權者カ留置物ニ付キ必要費ヲ出シタルトキハ所有者ヲシテ其償還ヲ爲サシムルコトヲ得

留置權者カ留置物ニ付キ有益費ヲ出シタルトキハ其價格ノ增加カ現存スル場合ニ限リ所有者ノ選擇ニ從ヒ其費シタル金額又ハ増價額ヲ償還セシムルコトヲ得但裁判所ノ所有者ノ請求ニ因リ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

(理由) 本條ハ既成法典擔保編第九條ニ相當ス蓋留置權ノ行使ハ債權者ノ利益ヲ爲メナレハ留置物ノ保存費用其他ノ必要費及ヒ有益費ハ債權者ノ負擔ニ歸スヘキモノノ如ク誤解スル虞アルヲ以テ

此明文ヲ存レタリ

第三百條

留置權ノ行使ハ債權ノ消滅時効ノ進行ヲ妨ケス

(理由) 本條ハ既成法典擔保編第一百十四條ヲ修正シタルモノニシテ同條ノ規定ニ依リハ買物ハ買取債權者ニ存スル間ハ債務ノ免責時効ヲ停止スト雖モ本案ハ全ク之ニ反對ノ主義ヲ取レリボアツナリ

『氏ノ草案モ亦既成法典ニ反シテ免責時効ヲ停止セストスルモ其理由トスル所ハ時効ハ一個ノ推定ニシテ推定ハ買物カ債權者ニ存スルコトニ因リテ妨ケララルコトナラトスルニ在リ本案ハ固ヨリ

時效ヲ以テ推定ト見做サスト雖モ留置權ハ元來債權ノ特別保護ヲモニ止マシ之レカ爲メニ債權ノ行使ヲ怠ラシムルカ如キ結果ヲ生スルハ決シテ望ム所ニアラス之レ既成法典ニ反對ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

第三百一條 債務者ハ相當ノ擔保ヲ供シテ留置權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

(理由) 本條ハ既成法典ノ認メサル所ナリト雖モ商法ニハ之ト同様ノ規定アリ又該圖ノ法典ニ於テモ多クハ本條ノ如キ規定ヲ設ケルヲ見ル蓋留置權ハ債權擔保ノ爲メニ認メラレタル便宜上ノ權利ナレハ債權者ノ權利ヲ擔保スルニ足ルヘキ他ノ物件ヲ供シ又相當ノ保證ヲ供スルトキハ濫リニ債權者ヲ拘束シテ取引ノ不便ヲ生ゼシムヘカラス故ニ本條ハ債務者ヲ相當ノ擔保ヲ供シテ留置權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得セシメ一方ニ於テ債權者ヲ保護スルト同時ニ他ノ一方ニ於テハ債權者ノ便利ヲモ斟酌シテ本條ノ規定ヲ設ケタリ之ニ反シテ既成法典擔保保編第九十條ノ規定ハ留置權ノ性質上明白ナルヲ以テ之ヲ刪除セリ

第三百二條 留置權ハ占有ノ喪失ニ因リテ消滅ス但第三百九十八條第三項ノ規定

第三條 質貸又ハ質入ヲ爲シタル場合ハ此限ニ在ラス

(理由) 他人ノ物ヲ占有スルコトハ留置權ノ要素ナルヲ以テ占有ノ喪失ハ留置權消滅ノ原因タルコト明白ナリト雖モ既ニ第二百九十八條ノ規定ニ依リテ留置權者ハ債務者ノ承諾アルトキハ留置物ヲ質貸又ハ質入スルコトヲ得ルモノナレハ是等ノ場合ニ於テハ占有ノ事實ナレト雖モ留置權ハ消滅セサ

ルノミナス質借人ノ如キハ當然留置權者ノ代理人ト云ヒ難キヲ以テ此等ノ疑義ヲ豫防スル爲メ特ニ本條ヲ設ケタリ